

# 平成 29 年度 自然科学コース 校外研修報告

## 2 年生 第 1 回「自然共生センター・薬の博物館」

1 日程	平成 29 年 6 月 27 日 (火)	場所 各務原市
	8 : 0 0	出発
	9 : 3 0 ~ 1 1 : 0 0	研修 (共生センターとは・河川について・研究紹介)
	1 1 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0	魚とり体験 (実験河川にて)
	1 2 : 3 0 ~ 1 3 : 1 0	昼食
	1 3 : 3 0 ~ 1 5 : 3 0	くすりの博物館・薬草園見学
	1 7 : 0 0	帰校

### 2 活動写真



説明を真剣な様子で聞いています。



いよいよ魚とり体験です。



実験河川で生物調査をしました。



コンクリートの種類により河川や生物への影響を調査します。



薬の薬木についての説明を受けました。



薬の博物館前にて

### 3 生徒の感想

- 印象に残っていることは、やはり多くのことを自分で体験できたことです。川に入って魚を採集するのはとても久しぶりで、中3の時にエビが見たくて、川に入ったのを機会にそれ以来1度も行っていませんでした。今回自由に魚を取ってよいということで、とても魅力的で楽しかったです。また薬の博物館ではいろいろな特徴のある草木を見て回りました。中には味に特徴があったり、古く薬に使われてきたりするものがありました。キハダという木にはお腹をこわした時に効果があり、ムクロジというのは現在の染料のように使われていたりするなど、よく我々の生活に使えると気づいたものだと見つけた人に感心しました。一番衝撃だったのはギムネマという植物で、食べると成分によって甘みを感じなくなるというものでした。口の中に含んだ後、グラニュー糖を食べたのですが、甘さが全く分からず、溶ける砂を食べている感じでした。とても楽しい研修でした。
- 共生センターのような生物の生態を研究している場所を見ることができてよかったです。人工的な川なのに、しっかり環境が整えられていて、生き物がたくさんいることに驚きました。大学の進路について研究者の方に相談できたのもよい経験になったと思います。自分の将来への道的一端を見ることができた気がします。
- 生き物についてたくさん知ることができたので良かったです。川では自分たちの力で大きな魚を捕まえたかったけれど、小さな魚やエビしか捕まえられなかったのが悔しかったです。土岐川も一級河川であるけれど、あまりきれいではないのできれいにしたいと思った。
- この研修で僕は人が環境を守るために精一杯頑張っていることが分かりました。水質汚濁や生物が住める環境の減少により、水生生物が生きる場所を奪われる現実には周知の事実ですが、それに対する対策として実験河川を使って研究していることをほとんど知りませんでした。この自然共生センターからとても大きな成果が生まれることを願っています。
- 「薬の博物館」では、本物の解体新書を見ることができ、とてもよかったですし、薬に関しての道具など、昔使われていた物の実物を豊富にみることもできたので理解しやすかったです。

#### 引率教員より

生徒も身近な河川についてあまり深く考えた経験はなく、自然共生センターの活動や研究に興味を持って話を聞くことができた。また研究員のご好意により、実験河川における魚とり体験をさせていただいた。生徒の中には川に入ったこともない生徒もいたが、生徒同士で協力して、魚を捕るミッションに楽しんで取り組むことができ、また自然に触れあう貴重な体験をさせていただいて感謝している。今回の経験で身近な河川についても生物学や工学の知識を含む違った目線で見ることができたり、生態系や環境保全、生物多様性について更なる興味を持ってくれたことと感じている。

「薬の博物館」でも施設紹介や見学のみでなく、実際に薬木や薬草園を案内していただいた。実際に薬草や薬木を食べさせてもらう体験をして、百草丸の成分になっているキハダというものや、ガンの研究に使われる木、また甘味料に使われる薬草（ステビア）などを体験させていただき、私自身も大変楽しませていただいた。やはり実際に体験することの効果はとても大きく、この経験が生徒の更なる興味や知識につながることを期待している。